



Weekly Market Report

Aug 23, 2021

FX, JPY Interest Rate, Topics

1. 為替相場概況

ジャクソンホール会議でのパウエルFRB議長の講演に注目。

USD/JPY (1週間の値動き)



(出所) Bloomberg

コメント

先週末のドル円相場は109円台前半から110円台前半のレンジで推移。前週末にミシガン大学消費者信頼感指数が予想を下回る内容を受けてドル円が大きく下落した流れを引き継いでスタート。週初はNY連銀指数が過去最高水準を記録した前月から大きく低下したことを受けてドル円は週最安値の109.11円まで下落。その後は、FRBがFOMC議事要旨を公表し年内にテーパリングに着手する構えであることが示されたことから、米ドルが上昇し110円台を回復。しかし、19日のロンドン時間にはリスク警戒の流れの中で欧州での株安、商品安と共に円買いが強まり、109円台半ばまで一気に下落。週末は大きなニュースもなく、緩やかな動きをして109円台後半での越週となった。今週のドル円相場は、ワイオミング州ジャクソンホールで開かれる年次経済シンポジウムでのパウエルFRB議長での講演に注目。テーパリングの前倒しについて踏み込んだ内容となれば、米ドルの上昇圧力となるだろう。(市場営業部/塚田)

今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
8/23(月)	(米国) マーケット製造業PMI	62.3
8/23(月)	(米国) 中古住宅販売件数	583万件
8/26(木)	(欧州) ECB理事会議事要旨	
8/26(木)	(米国) 2Q実質GDP(前期比)	+6.7%
8/27(金)	(米国) 個人支出(前月比)	+0.4%

USD/JPY (5年間)



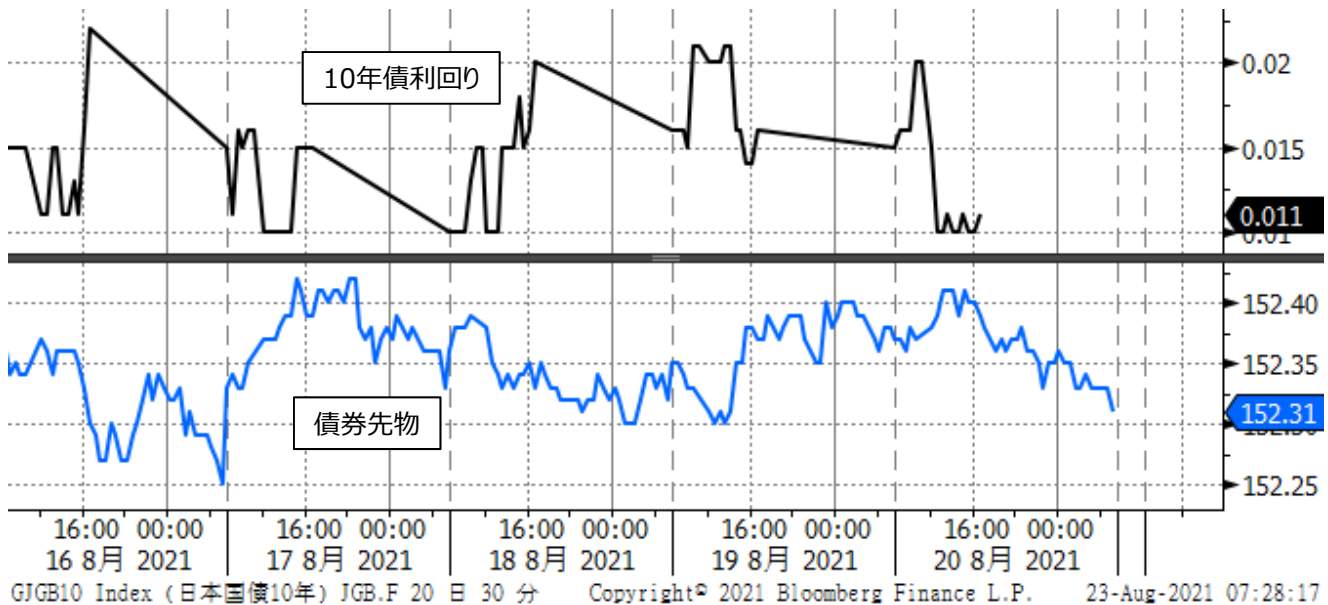
今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
福永純一	108.80 - 111.00	今週はジャクソンホール会合(26~28日)を控えて、方向性に乏しい展開を予想。テーパリングの地均しとなるか注目。
山下航平	108.50 - 110.50	7月のFOMCで年内テーパリングが示唆されるも、足元のデルタ株感染急増を受け、ドル円は方向感が出にくい展開を予想。

2. 円金利相場概況

注目イベント「ジャクソンホール会合」を予定。経済見通しに関する発言に注目。

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）

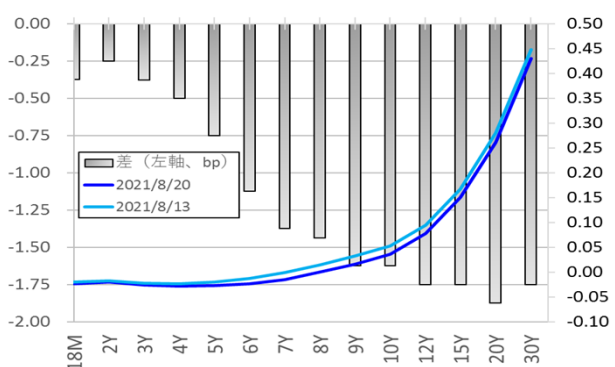


(出所) Bloomberg

コメント

先週の10年国債金利は0.010%-0.020%前後のレンジで推移。週初はアフガニスタンを巡る地政学リスクの高まりや、米経済指標の悪化に伴う米長期金利の低下を受け、低位からのスタートとなった。週中に実施された5-10年オペは無難な結果で市場への影響は限定的となった。米長期金利についてもパウエルFRB議長の講演やFOMC議事要旨に目立った材料はなくリスクオフ姿勢は大きく変わらず、その後も終始動意に欠ける展開が続いた。今週は注目イベントであるジャクソンホール会合が予定されており、今後の経済見通しに関する発言内容によってはボラティリティが高まる可能性があるとする。 (市場営業部/治久丸)

金利スワップ変化（1週間）



5年円金利スワップ推移（5年間）



今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
小野口裕美子	▲0.01% - 0.03%	米金利はジャクソンホール会合待ちで動意の薄い展開、円金利も材料少なくもみ合い推移となりそう。
廣瀬友絵	0.00% - 0.03%	地政学リスクの高まりや緊急事態宣言の期間延長で、長期金利は上昇しにくい展開か。パウエル議長の講演にも注目。

国内ファンダメンタルズ状況の確認

景況感は、オリンピックによる効果が一部でみられたものの、家計動向が弱く依然として悪化傾向。感染症の動向に対する懸念が継続するなかで、ワクチン接種の進展が注視される。

景気ウォッチャーの持ち直しは限定的。

当レポートでは、コロナウイルス感染の影響が継続するなかで日本の足もとの景況感を整理する。まず、国内の景況感を確認するために【図1】に景気ウォッチャー調査を載せている。7月の景気の現状判断DI（季節調整値）は47.7。前月差+8.3ptと上昇したものの、改善と悪化の基準となる50を9か月連続で下回っている。景気ウォッチャーの調査期間が25日から月末と東京オリンピックの開催期間と重なるなかで、景況感の持ち直しは限定的となった。内閣府は「景気は、新型コロナウイルス感染症の影響による厳しさが残るものの、持ち直している。先行きについては、感染症の動向を懸念しつつも、ワクチン接種の進展等によって持ち直しが続くとみている」とまとめている。

家計の動向は依然として悪化傾向。

ここからは景気ウォッチャー調査の内訳を確認していく。まず、一般家計の顧客動向を把握する販売店等の景況感の推移を【図2】に示したが、足もとの改善がみられない状況が継続している。家計動向関連の現状判断DIは同3.4pt上昇しているが、依然として改善と悪化の基準となる50を下回っている。また、先行き判断DIでは販売制限による影響の大きい飲食関連の落ち込み（同▲6.4pt）に加えて、サービス関連の悪化（同▲8.5pt）が激しい。景況感の判断理由を見ると、オリンピック効果によるまとめ買いの需要が見られるとのコメントが見られた一方で、ワクチンの接種がすすみ、感染者数に変化が出るまでは厳しさが増すとのコメントもみられており、新型コロナウイルスの感染拡大が依然として家計動向への重石となっていると考えられる。

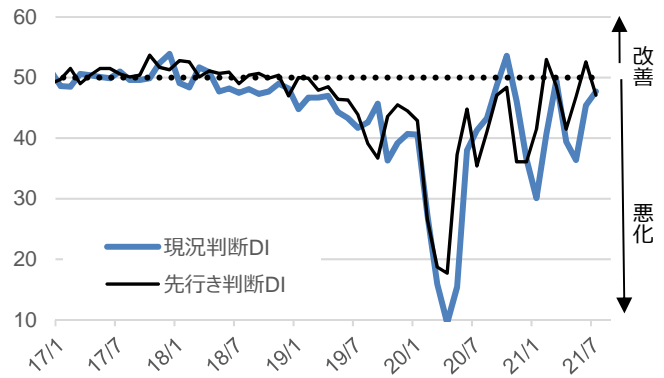
企業部門は、製造業が堅調に推移。

企業部門の現状判断DIを【図3】に示している。企業動向関連の内訳においては、製造業が52.6（前月差±0pt）と改善する一方、非製造業が47.2（同▲0.6pt）と悪化した。全体の企業動向は49.6と前月の50.1から再び50割れとなった。ただし、前月からの落ち込みは同▲0.5ptと軽微であり、製造業は2か月連続で50を上回っている。コメントでは、新規受注の回復を指摘するものが散見された一方、原材料品・半導体の不足及び価格の高騰が懸念される。

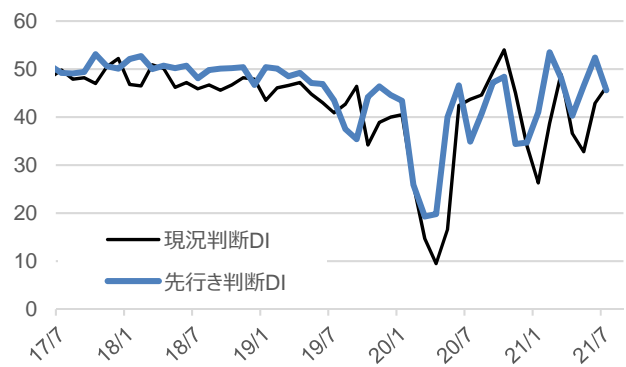
今後の景況感については、ワクチン接種の進捗が大きく影響すると考える。

景気の先行き判断DIは前月差▲5.5ptと悪化し47.1となった【図1】。内訳を見ると、家計動向関連が45.6（同▲6.8pt）、企業動向関連が49.8（同：▲2.0pt）、雇用関連が50.7（同：▲5.2pt）であった。先行き判断理由を見ると、新型コロナウイルスの感染拡大とそれに伴う緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などの対策による影響が挙げられている。また、9-10月には、新型コロナウイルスのワクチン接種が更に進む等の期待がコメントに挙げられていたこともあり、今後の景況感改善はワクチン接種の進捗と感染状況に大きく依存すると考えられる。（市場営業部/小澤）

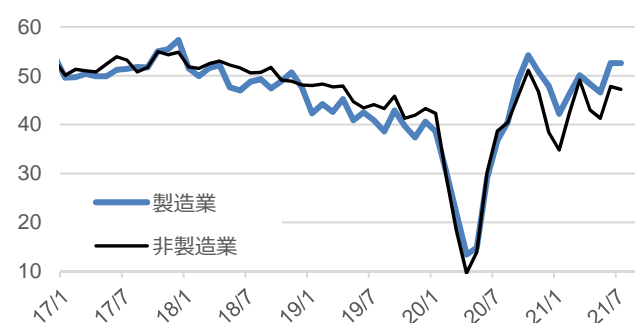
【図1】景気ウォッチャー調査



【図2】家計動向・現状判断DI & 先行き判断DI



【図3】現状判断DI 製造業vs非製造業



出典：内閣府

ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会